

授業科目名	基礎看護技術演習 (2300303)		
時間割名	基礎看護技術演習 (11202)		
時間割担当	中馬成子 北島洋子 林文子		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	月・1~2		

授業の目標・概要

基礎的な看護ケアについて、座学と学内演習を組み合わせ学習することにより、科学的根拠に基づいた思考力を伴った技術が展開できる能力を養う。また、臨床を模した学習環境に身を置くことにより、看護学を学習するにあたり必要な主体的な学習姿勢と態度を身につける

学習の到達目標

すべての看護ケアに共通する基本的な知識と技術、自立した生活が困難となった人々に対する日常生活の援助技術、診療を補助する際の援助技術について、原理と原則に準拠し、安全と安楽を確保した基礎的な実践能力を習得する。

授業方法・形式

講義・演習

授業計画

1. 看護における学習支援（学習に関わる諸理論、対象者に合わせた目標設定・支援方法と媒体の工夫、個別指導・集団指導の特性と適用）講義
2. 看護情報管理（医療情報と看護情報、看護における情報管理、看護情報の記録・報告と共有）講義
3. 食事と栄養の援助（食事と栄養の意義、健康な食生活と食事摂取基準、治療食・療養食、食事と栄養に影響する要因、食事と栄養のアセスメント）講義
4. 食事と栄養の援助（食事摂取の自立困難な人、嚥下障害のある人、経管・経腸栄養法、経静脈栄養法）講義
5. 食事と栄養の援助（食事介助）演習
6. 食事と栄養の援助（食事介助）演習
7. 排泄の援助（排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント）講義
8. 排泄の援助（自然な排泄、トイレ・ポータブルトイレ、床上、自然な排泄が困難な人、尿失禁・便失禁のある人）講義
9. 排泄の援助（おむつ交換、陰部洗浄）演習
10. 排泄の援助（おむつ交換、陰部洗浄）演習
11. 排泄の援助（浣腸、床上排泄）演習
12. 排泄の援助（浣腸、床上排泄）演習
13. 排泄の援助（一時的導尿）演習
14. 排泄の援助（一時的導尿）演習
15. 皮膚・創傷管理（創傷の治癒過程、創傷のアセスメント、洗浄・保護・包帯法、褥瘡の予防と治癒の促進）講義
16. 皮膚・創傷管理 講義
17. 生体機能のモニタリング（生体検査：エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学、経皮的動脈血酸素飽和度の測定、血糖測定、モニタリング機器の取り扱い）講義
18. 生体機能のモニタリング 講義
19. 生体機能のモニタリング（生体検査：エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学、経皮的動脈血酸素飽和度の測定、血糖測定、モニタリング機器の取り扱い）講義
20. 生体機能のモニタリング 講義
21. 生体機能のモニタリング 講義
22. 生体機能のモニタリング（採血）演習
23. 生体機能のモニタリング（採血）演習
24. 与薬（与薬における看護師の役割、薬剤の種類と取り扱い方法、与薬方法と効果の観察）講義
25. 与薬（注射法）演習
26. 与薬（注射法）演習
27. 輸液・輸血管理（輸液・輸血の種類と取り扱い方法、輸液・輸血の管理方法、輸液・輸血の副作用の観察）講義
28. 輸液・輸血管理（輸液の実際）演習
29. 輸液・輸血管理（輸液の実際）演習
30. 技術チェック

成績評価の基準

定期試験（筆記・実技試験）50％，課題レポート30％，学習態度（取り組みの積極性・グループワークへの参加度）20％

準備学習・復習及び授業時間外の課題

技術とは知識、技能、態度の3つから構成されると言われ、この3つを統合していくことは大変重要である。また各単元は、密接に関連しており、学習の積み重ねが到達度を高めることになるので、欠席せず、積極的に、かつ自主的に自己学習を反復、発展させ学習に取り組む。

履修上のアドバイス及び留意点

常に対象者に対する安全、安楽を考え技術を習得する。
技術の根拠を講義で理解し、演習に臨む。

教材・教科書

テキスト

1. 茂野香おる:系統看護学講座、基礎看護技術 , 第16版, 医学書院, 2015.
2. 茂野香おる:系統看護学講座、基礎看護技術 , 第17版, 医学書院, 2017.

参考書

参考書については講義の中で適宜紹介する。